

European Drosophila Research Conference に参加して

統合生命科学専攻 細胞認識学分野 博士後期課程1年

金岡泰哲

私は、「実践的生命科学英語コミュニケーションプログラム」のご支援を受けて、2019年9月5日から8日にかけてスイスのローザンヌで開催された European Drosophila Research Conference (EDRC)に参加し、ポスター発表を行わせていただきました。

EDRCにはヨーロッパだけでなく、アメリカやアジアなど世界中から研究者が参加しており、彼らの研究発表を聞くことで、世界のショウジョウバエ研究の潮流を知ることができました。また、この学会には自身の研究分野である代謝や神経科学の分野で最先端を走る研究者も多数参加していました。そのおかげで、ポスターセッションでは、普段自分が参考文献として読んでいた論文の著者と直接議論し、自身の研究テーマについて多くのコメントをいただく非常に貴重な機会が得られました。しかし、言いたいことがさっと英語で出てこないばかりに、議論が一問一答のような場面もあり、やはり日常的に英語でのコミュニケーションの練習をしていく必要があるなと痛感しました。

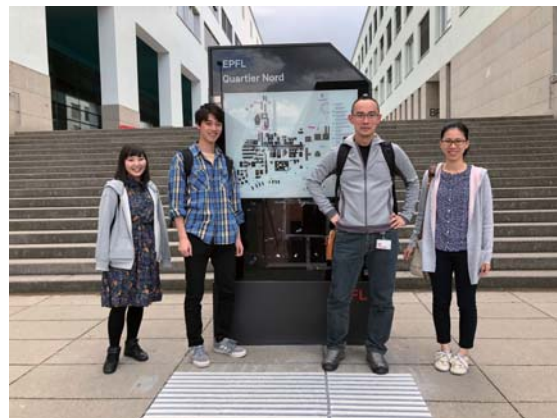
学会参加を通して何より印象的だったのは、参加者がサイエンスに情熱を持ちながらも、研究生生活を心から楽しんでいるのが見て取れたことです。学会終盤に行われた交流会で、老若男女問わず、音楽に合わせてダンスをしている人がある傍ら、ワイン片手に熱心にディスカッションをしている研究者がいる風景はとても心に残っています。

学会後には、スイス連邦工科大学の Bruno Lemaitre 教授の研究室を訪問しました。この訪問では、共有最先端機器施設や他機関との連携方法などについて話を聞くことができ、ヨーロッパでの研究環境について知ることができました。また、この派遣を通じて、ヨーロッパで研究生生活を送っているアジア人研究者ともたくさん交流することができたのも良い経験であったと感じています。留學生活の体験談や苦勞話を聞けたため、自身の今後の進路を決める上で非常に参考になりました。

最後になりましたが、派遣前に英語でのポスター発表の指導をしてくださった James Hejna 先生、日頃から研究指導をいただいている上村匡先生、服部佑佳子先生、そしてご支援をいただいた生命科学研究科のみなさまに心よりお礼申し上げます。



学会の交流会では、DJが絶えず音楽を流していた。



スイス連邦工科大学前での記念撮影